

一步先を行く大学に聞きました!

長崎県立大学 経営学部国際経営学科



経営学部国際経営学科長
岩重 聡美

いわしげさとみ ● 福岡大学大学院商学研究科博士後課程単位取得満期退学。2008年、長崎県立大学経済学部教授。2012年、同学部流通・経営学科長。2016年より現職。専門は消費者利益と流通システム。博士(国際学)。

ハードな英語教育を課して 国際舞台に立つビジネスパーソンを育てる

ビジネスで通用する
英語力養成をめざす

「この学科が育成をめざす人材像を教えてください。」

国際経営学科は、2016年度の全学的な改組に伴って新設された学科で、1学年の定員は60人です。

本学科でめざすのは、「国際的に活躍するビジネスパーソン」の育成。異なる言語、文化、歴史を持つ人々と、英語を通じて対等に

コミュニケーションが取れる人材を育てたいと考えています。

そのため、まずは頭も心もフレッシュな1年次に英語を集中的に修得させるようにしています。

というのも、厳しい交渉が求められるビジネスの現場においては、プロクンイングリッシュでは通用しないと考えているからです。「話す」だけでなく、「聞く」「読む」「書く」といった4技能の基礎的な英語力を身に付けることは大変重要です。

2度の海外研修が必修

厳しい環境で学生を育てる

「英語力向上のために、具体的にどのような教育を提供していますか。」

特徴的なのは、海外研修を2回、必修としている点です。1回目は、1年次の夏休みにフィリピン・セブ島で行う語学研修(3週間)です。これに参加するためには外部英語検定試験で600点以上を取らなければなりません。土台がで

国際経営学科の学びの特長

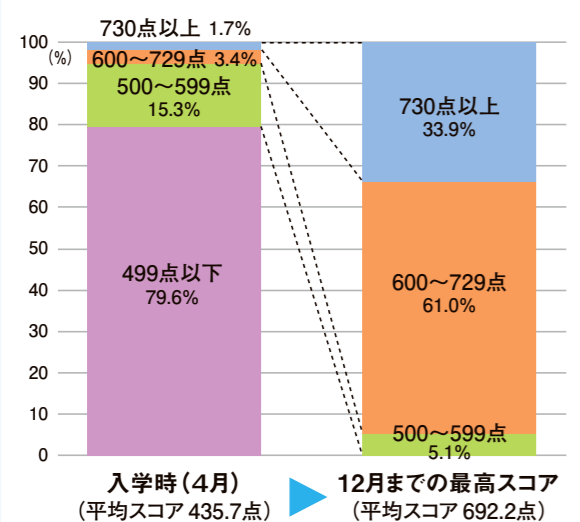
語学研修	【実施時期】1年次(必修) 【期間】約3週間 【概要】フィリピン・セブ島での短期語学留学。現地講師とのマンツーマン授業で、外部英語検定平均スコア100点アップをめざす。参加条件は外部英語検定スコア600点以上
海外ビジネス研修	【実施時期】3年次(必修) 【期間】約3週間 【概要】シンガポール、ベトナムなどの現地企業、日系企業等での就業体験を通じ、英語でのコミュニケーション能力を高める

取材・文／本間学 撮影(岩重聡美学科長)／南弘幸

セブ島での語学研修の様子。午前中はフィリピン人講師によるマンツーマン授業、午後はグループ学習、夕食後は自主学習というスケジュールで、午前9時から午後9時まで学習する。



国際経営学科1期生(60名)の英語力の推移



の指導に定評のある専門家に頼んだほうが、成果が上がると考えました。

セブ島での研修では、フィリピン人講師との会話や少人数でのディスカッションを通して、英語で考え、発信する力を養います。授業や模試、自習に取り組む時間は1日10時間以上。日曜日以外は英語漬けの毎日です。1期生の成績を見ると、入学時は435.7点だった外部英語検定試験の平均スコアが、研修後は692.2点にまで伸びました。

2回目の海外研修は、3年次での3週間程度のビジネス研修です。これは、シンガポールやベト

ナムなど、東南アジアの企業で就業体験をするプログラムです。グローバルに活動する企業の現場を肌で感じるとともに、ビジネスで使える高いレベルの英語力を身に付けるのが狙いです。

「英語力の指標に外部検定のスコアを用いている理由は?」

外部英語検定によって、学生自身に自分の英語力の伸びを客観的に把握してもらいたいという意図があります。加えて、私たちが行っている教育の成果を社会に発信する際、数値として活用しやすいからです。また、海外研修先の企業に対する、学生の英語力を保証するデータとしても使っています。

教職員が連携して

学生の目標達成をサポート

「海外語学研修の準備は、苦労が多かったと思います。」

研修のプログラムは、現地の語学学校のスタッフと何度も協議して、完全オーダーメイドのカリキュラムをつくりました。語学学校にはビジネスパーソンに必要なスピーキングとリスニング、ライティングを徹底的に鍛えてほしいとリクエストしました。安心できる場所を勉強させたかったので、周囲環境から食事に至るまで、細心の注意を払って寮を決めました。

海外ビジネス研修の企業開拓に

関しては、私を含め、学科の教員と職員が現地に赴いて、企業と直接交渉もしています。すでに決まっている研修先はシンガポールに10数社、ベトナムに20社程度。今後はタイにも広げる予定です。

「初年次からかなりハードな英語教育を行っています。どのようなフォローをしていますか。」

今のところ脱落者は出ていませんが、「こんなに英語ばかりで苦しい」と悩む学生はたくさんいます。学生は私たちの宝ですから、丁寧なフォローも欠かせません。面談をしたり、教職員から積極的に声を掛けたりするようにしてい

ます。数日大学に来ないようなら、自宅まで様子を見に行くこともあります。万が一、夏までに語学研修の参加条件を満たせなかった場合でも、努力を続けてスコアをクリアしたら、春休みに参加できるチャンスを用意しています。

「今後の展開について教えてください。」

1期生はまだ、英語の勉強が中心ですが、この先は専門講義が増えていきます。改組前の教育とは少し視点を変え、「国際」という観点を重視し、常にホットなニュースとフレッシュな理論を積極的に授業に取り入れていく予定です。

最終的に私たちが提供しなければならぬのは、学生が望む就職先です。勉強面でも費用面でも多くの負担がかかっている学生に対して、「これだけ教育したのだから、就職は勝手にしてください」とは絶対に言えません。本学科の教員には、研修先企業の開拓のときも、就職先としてつなげられないか、常に頭においてほしいと伝えています。

幸い1期生は、それぞれ具体的な将来像を明確に持っています。彼らが社会に出て活躍し、後輩たちのモデルケースとなってくれることを期待しています。